

## 授業改善等に関する報告書（2019年度前期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2019（前期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
スポーツ栄養学 a	奈良 典子	後期にむけて参考にさせていただきます。
生理人類学	山崎 和彦	不満がゼロであったから、私にしては、大いに前進したといえるのであろう。私の側の不満は、受講者が例年に比べて少なかったことである（ただし、少人数ゆえ、授業がやり易かった）。
ファッションビジネス演習	大川 知子	朝1限の授業で、みなさんも大変だったと思いますが、総じて出席率も高く、また、何より熱心に受講頂き、最後の授業でお話しましたが、大変進め易い授業でした。この授業を通して、これからどのように売り方が変わったとしても、先ずは商品価値が全ての原点にあること、提供側は、専門知識をきちんと理解する必要があることを学ぶことが出来たとすれば、この講座の目標は達成出来たと思います。
建築概論	榎 究	さらに専門的に学びたいとは思ったが、説明を理解するのは難しさもあったというまとめになるかと思えます。建築系の最初の授業ですが、紹介する建物も多いですし、大変さもあつたと思えます。manaba小テストやプリント以外の、まとめて発表するような活動を取り入れて、知識の定着を図ることを考えたいと思えます。
住居学	橘 弘志	おおむね、全体平均と同等の評価となっている。住居についての理解・知識が深まったというコメントが多く得られた。また、授業の最後に行うリアクションペーパーに記された質問・疑問に対して、次回の授業の冒頭で解答解説を行っており、それが授業の理解に役立っているというコメントが得られた。授業に対する姿勢に影響を与える有効な方法となっていることが窺われる。
生活空間計画	橘 弘志	レーダーチャートを見ると、全体平均とほぼ同じ評価となっている。建築志望以外の学生も受講しているが、そうした学生からも、さまざまな建築・施設に対する理解が深まったという記述があった。パワーポイントによる授業は多くの写真を見せて建築を理解する上で有効だが、一方的な講義になりやすく、もう少し学生の意見をその場で取り入れていけるような工夫を試みてみたい。
食物学	佐藤 幸子	食生活論では、自分自身の食に対する意識向上をめざしています。十分な相互授業ができなかったことは、残念ではありますが。今後、もし疑問などはぜひ研究室に訪ねて来て下さい。また、次年度は予習時間を有意義に学べるように、実生活において実感できる課題設定をしていきたいと思えます。
デザイン基礎演習 a	塚原 肇	授業内容は理解できましたか。 スケッチは描けば描くほど目に見えて上達します。 今後も続けて練習してください。
人間工学実験	佐藤 健	人間工学アシスタントの資格を希望する場合は、必ず履修して、学生会員になってください。
デザイン基礎演習 a	塚原 肇	授業内容は理解できましたか。 スケッチは描けば描くほど目に見えて上達します。 今後も続けて練習してください。
アパレルデザイン基礎	川上 梅	「総合的に判断してこの授業に満足」では、「満足」(27%)と「どちらかと言えば満足」(53%)で計80%になります。この80%の人達に注目すると、「板書・パワーポイント・資料」「授業のスピード」「説明の分かり易さ」「双方向授業」の項目でも、「あてはまる」あるいは「どちらかと言えばあてはまる」という回答が、それぞれ92%、88%、88%、88%を占めています。満足度を高めるために授業内容の時間配分に配慮し、分かり易い授業を心がけます。
建築法規	橘 弘志	レーダーチャートを見ると、全体平均とほぼ同じ評価となっている。今年は、毎回配布していたプリントを、事前に冊子体にして配布してみたが、もう少し予習に活用できるような形で考えたい。またテキストとの連携を工夫したい。
生活環境基礎 a	榎 究	特にQ6とQ7の評価が低かったのが問題点です。 ここ2年ほど、継続して学生同士で学ぶというのをやってきました。一定の成果を得ていたと感じていたのですが、今年は活動を活性化させることが上手く出来なかったように感じています。 学生の傾向・モチベーションのあり方が異なるケースで、どのように指導していったらいいかという課題に、どう取り組んでいくのが課題です。

[2019（前期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
設計製図基礎	橋 弘志	この演習はとにかく毎週課題をこなすことによって、製図のスキルを向上させることに特化したものである。とにかく自宅学習が必須となる。今年は昨年度よりも再提出を課した課題も増えたが、きちんと取り組んだ学生については、確実に技術が向上したように思われる。ここで身に付けた製図のスキルを、この先の設計製図のモチベーションにつなげていくことが大きな課題である。
インテリアデザイン演習	山口 照也	まず、課題Ⅱの結果についてコメントします。 担当教師としての純粋なA評価以上は2名（6%）でしたが、皆さんの学生評価も加味して、A評価以上は7名（21%）になりました。D評価はいませんでした。未提出者（失格）が1名いました。 毎年、皆さんの提出図面を細かくチェックし、表現として良くない部分だけでなく、良い部分も見つけ出すべく努め、「山口の講評」としてまとめています。作品返却と一緒に配布しているので、目を通してください。 アンケート結果については、次のようにコメントします。 ①「成長の実感記述」と「自由記述」に6つのコメントがありました。6つとも好評価の内容でした。 ②アンケート各項目では、欠席回数と自己採点以外はほとんど当該区分平均や全体平均より高い数値で、望ましい結果だったのですが、アンケート回答率そのものが22.9%（8人）と過去最低だったので、当該科目平均の数値が正しいとは言えないようです。
生活気候学	山崎 和彦	成績が二極化していた。上位の学生諸君は、我が試験問題に対し、もの足りない気分だろう。下位の諸君はどうすればよいのだろうか。座席前方に座るよう、今後心掛けてはいかがですか。
設計製図基礎	橋 弘志	この演習はとにかく毎週課題をこなすことによって、製図のスキルを向上させることに特化したものである。とにかく自宅学習が必須となる。今年は昨年度よりも再提出を課した課題も増えたが、きちんと取り組んだ学生については、確実に技術が向上したように思われる。ここで身に付けた製図のスキルを、この先の設計製図のモチベーションにつなげていくことが大きな課題である。
生活空間設計製図Ⅰ	高田 典夫	デザインには正解はないから、課題に対してどのようなストーリーを組み立てるのが問題なのです。自分の考えたことを他人に理解してもらうための手段が、図面・スケッチ・模型などの目に見えるものであり、それらを駆使して行うトライアルがエスキスです。 だから僕や助手・院生をもっと使い倒さなきゃ・・・ プレゼンテーションは、やったことの説明ではなくて、この課題を通して考えたことを一つの物語にして語ろうよ。
インテリアコーディネート演習	山口 照也	まず、課題Ⅱの結果についてコメントします。 担当教師としての純粋なA評価以上は1名（5%）でしたが、皆さんの学生評価も加味して、A評価以上は4名（22%）になりました。D評価はいませんでした。未提出者（失格）が2名いました。 毎年、皆さんの提出図面を細かくチェックし、表現として良くない部分だけでなく、良い部分も見つけ出すべく努め、「山口の講評」としてまとめています。作品返却と一緒に配布しているので、目を通してください。 本年度の特徴は、8人（44%）が図面としてまとめるのが遅れて、プレゼンテーションができなかった事です。この失敗を卒業研究に活かしてください。 アンケート結果については、次のようにコメントします。 ①「成長の実感記述」に2つのコメントがありました。2つとも好評価の内容でした。 ②アンケート各項目では、欠席回数と自己採点以外はほとんど当該区分平均や全体平均より高い数値で、望ましい結果だったのですが、アンケート回答率そのものが33.3%（6人）と過去最低だったので、当該科目平均の数値が正しいとは言えないようです。
アパレルデザイン基礎実験	川上 梅	「総合的に判断してこの授業に満足」では、「満足」（79%）と「どちらかと言えば満足」（21%）で計100%になります。しかし、「授業のスピード」では、「良い」あるいは「どちらかと言えば良い」を合わせると58%に過ぎませんので、時々進度チェックを行うようにしたいと思います。
建築・インテリア構法	高田 典夫	授業中の反応からは、きちんと理解してもらえているのかよくわからなかったが、この授業の意義も内容もそれなりに理解していることがわかりました。
デザイン史	塚原 肇	デザインの歴史を知ることは大変重要です。 先人がどのようにデザインを捉え進化させていったかを知ることにより今後のあなた方の進む方向が見えてきます。授業を通して興味を持ったデザイナーや作品があれば進んで調べてみてください。
テキスタイル材料実験	加藤木 秀章	授業前後に予習・復習も行うと、内容についてより理解しやすくなります。

[2019（前期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
インテリアグラフィック演習	槇 究	全般的に平均を上回る評価となっていました。成長が実感できて、さらに学びたいと思えたのは、努力の賜だと思います。設計製図やゼミでの活動などで、身に付けた知識と技を活かして貰えればと思います。
住環境デザイン論	高田 典夫	住環境デザインに関する考え方は、一つしかないわけではなく、多様なものです。そういう点から、外部から講師の先生方をお呼びして、異なる側面からのお話をしていたり、毎回参考図書をあげたりしています。この授業をきっかけにして、幅広い興味を持ってもらいたいと思っています。
生活環境学セミナー	大川 知子	通年講座ですので、後期に、アンケートの協力をお願いします。
生活環境学セミナー	川上 梅	回答率25%でしたが、3名の方からの授業評価があり、満足度は4.33でした。今年度のゼミ活動の一環として行う常磐祭でのファッションショーは、ゼミとしては初めての企画ですので手探りの部分もありますが、皆で協力し成功させたいと思います。
生活環境学セミナー	牛腸 ヒロミ	回答者数が8人中2名と少なかったのが反省点です。授業評価が、可もなく不可もなく、普通ということでしょうか？
生活環境学セミナー	塚原 肇	前期は椅子作りを行いました。初めての本格的なプロダクトデザインでしたが思い通りのデザインができましたか。今回はデザインのプロセスを習得することが目的でした。このプロセスを2020年度の卒業制作に活用してください。
生活環境学セミナー	槇 究	2名の回答なので、コメントは控えますが、基本的には、自分達で考えて、プロジェクトを進めるということが出来ていたように思います。後期も、様々な活躍してくれることを期待しています。
生活環境学セミナー	山崎 和彦	体育祭での優勝はめでたいことであった。ゼミ発表では、全員が完全に揃うことは少なく、残念であった。後期は向寒期ゆえ、いよいよ心配である。気を引き締め、生活態度をあらため、臨んでいただきたい。
ファッション文化論	新實 五穂	学生の授業満足度が割合と高く、安心したが、回答率の低さが気になりました。授業内での試験の終了後に告知して、回答を学生にお願いしたのが遅すぎたかもしれないので、来年度からは気をつけたいと思います。
ファッションビジ論	大川 知子	4ヶ月の受講、お疲れ様でした。ほぼ毎回課題が有り、大変だったと思いますが、多くの方達がきちんと提出してくれたので、感謝しています。その為か、例年よりも予習復習に時間を割いている学生が多く、30分程度も含めると、96%もいました。時間を掛けて、自分の頭で考えたことは中々忘れません。今後の授業でも、その習慣を心掛けて下さい。
ユニバーサルデザ論	塚原 肇	ユニバーサルデザインは建築、アパレル、プロダクトなど全てのデザインの基礎になります。しっかり理解して、常にUDを意識したデザインを行ってください。
伝統衣服実習	川上 梅	「総合的に判断してこの授業に満足しましたか？」では「満足」（50%）と「どちらかと言えば満足」（50%）で100%になり、概ね満足できたものと考えますが、今年度は回答率が33%と例年よりも低かったことを残念に思います。
テキスタイル管理実験	牛腸 ヒロミ	皆さんの努力はひしひしと感じました。「まあまあ理解できた」以上の評価をより多く得るべく工夫をしたいと思います。
工業デザイン概論	山崎 和彦	私はこの授業を、卒業研究に向けた助走とみている。選択肢の中からひとつを選ぶ。それは一瞬で決まるが、決まった後、上手く行くか否かは、経験量が関わっている。1年2年の内は、方向を固定せず、広く貪欲に学習する姿勢が望ましいと私は思う。
プロダクトデザイン論	塚原 肇	プロダクトデザインの概要は理解できましたか。使用した教科書をデザインの辞書代わりに活用してください。そして是非、プロダクトデザイン検定1級にチャレンジしてください。
感性と生活情報システム	佐藤 健	授業を通して、神経科学やコンピュータサイエンスについて少しでも理解が深まると幸いです。